

多様性のある技術者になる為の第一歩

～技術士（上下水道部門）～

1. 受験の動機・経緯

近年、市役所の技術者をとりまく環境は大きく変化しているように日々感じています。特に中小規模の市町村では職員の減少や技術者の若年化が進んでいる中で、過去のノウハウが通用しないような災害などの発生に対応するには個々のスキルアップは必要不可欠だと考えます。私は旧役場に採用されてから業務に携わる中で事務職から技術職へ変更になった為に元々技術系の資格を保有しておらず、普段から自己研鑽の為に資格取得に対しては積極的にチャレンジするよう心がけています。しかし、技術士は合格率が10%程度となる年がある難関試験であり、自分には難しい試験だと感じ敬遠していましたが、40歳を迎える節目のチャレンジの意味と、難関試験にチャレンジすることで組織内での技術力・自己研鑽の意識向上を図る一因になるのではないかとこの思いを持って受験しました。

2. 上下水道部門の留意点

私が受験した上下水道部門は上水道と下水道の似て非なる分野をそれぞれ理解する必要があります。

日常業務で上水道と下水道を両方携わっている人は中々居ないのではないかと思います。日常携わっていない分野の幅広い理解が必要になるという点では、特に一次試験において上下水道部門は他部門と比較して独特の学習が必要になります。二次試験においても、午前の問題で上下水共通の問題が出題されますので対策を怠らないよう留意が必要です。

3. 筆記試験の留意点

令和元年度に技術士試験方法が変更となり、択一試験が無くなり論文試験となりましたので留意が必要です。5,400字9枚もの論文を1日で手書きすることが求められます。私は普段から手書きする習慣が身につけていなかった為、1日にこの字数を手書きすることさえできない状態からのスタートとなりましたので大変辛く感じました。まずは、過去問の解答を時間内に書き写す練習から始めましたが、当初は時間内に文字を書き終えるだけで精一杯でした。書く練習は実践あるのみで、読めるけど書けない漢字の練習や技術士試験特有の1マスの使い方を含めて3週間程度で書くことへの苦手意識が克服されま

した。また、論文のポイントとしては、時間を割いても書き始める前に書く内容を項目ごとに整理して、結論までのシナリオを作ることが大切だと感じます。着地点の見えない論文になることや、大きな書き直しを防ぐ意味で効果的だと思います。論文試験は、日々の積み重ねの大切さを痛感しました。日常的に知識のインプットを行う場面は多いですが、アウトプットする機会は限られます。受験を考えている人は、日頃から頭の中にあることを整理して効果的にアウトプットすることと、手書きで漢字を書くことを少しずつ実践して備えることをお勧めします。

4. 口述試験の留意点

口述試験は複数人（私の場合は3人）からの質問に対して、その場で適切に答える必要があります。考える時間はほぼありませんので、経験則に応じた答えを想定して準備しておく必要があります。令和元年度の技術士試験方法変更によりコミュニケーション・リーダーシップを求められるようになりましたので、その点に留意し、技術士に求められるコンピテンシーに加え、IoT技術の活用や働き方改革など世の中の動きについても認識して臨むことをお勧めします。

5. おわりに

技術士試験は出願時から試験がスタートする1年間に要する長丁場の試験です。期間中、勉強に行き詰ってしまうこともあると思います。地方部に住んでいるとセミナーや講座への参加が難しいですが、Webなどのツールを利用し第三者の客観的意見などを得る機会を設け、確認をすることも効果的だと感じました。特に、出願時の業務経歴や体験論文は



曾於市 水道課 工務係長

おおみわ なおき
大峯 直樹

（取得した資格：技術士（上下水道部門）
資格取得年度：令和元年度）

口述試験で詳しく質問を受けることを想定し、意図が相手に伝わるかの確認が必要不可欠です。また、通常業務を行いながら対策をする為には家族や職場の理解が必要不可欠です。私自身も二次試験直前に管理する施設で大きなトラブルが発生し受験を諦めかけましたが、職場より寛大な配慮を頂き受験が叶ったことを心より感謝しています。

私は今回技術士試験を経験して、新しい技術や既存技術について更なる理解を深めることができたと共に、これまでに触れたことが無いような多様な新しい視点を得る良いきっかけとなりました。今後は過去に前例のない様々な問題点を円滑に解決していくうえで、技術者として専門性のみでなく、多様性を求められる時代が訪れると思います。その第一歩として技術士試験にチャレンジすることは非常に有意義だと感じました。

これからは更なる継続研鑽に加え、適切な技術継承やマネジメントスキルの向上に励み職場へ還元していきたいと考えます。